

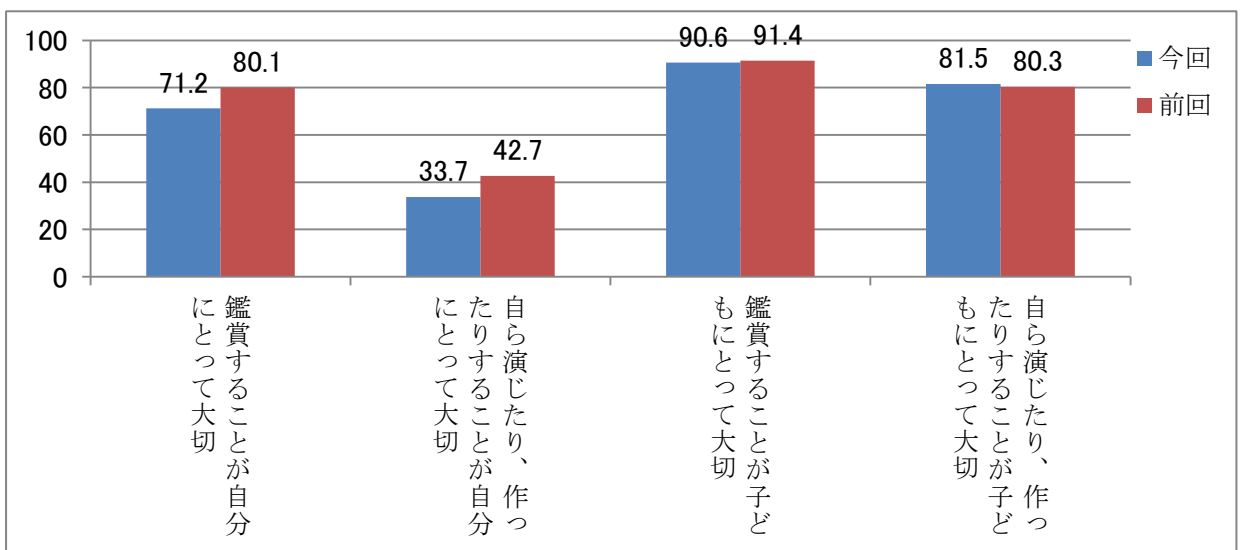
文化に関する県民アンケート調査結果の概要

平成28年5月実施 調査対象 1,200 回収数 620 回収率 51.7%  
 ※前回＝H22.8調査、全国＝文化に関する世論調査H21.11調査（内閣府）

1 文化に関する意識

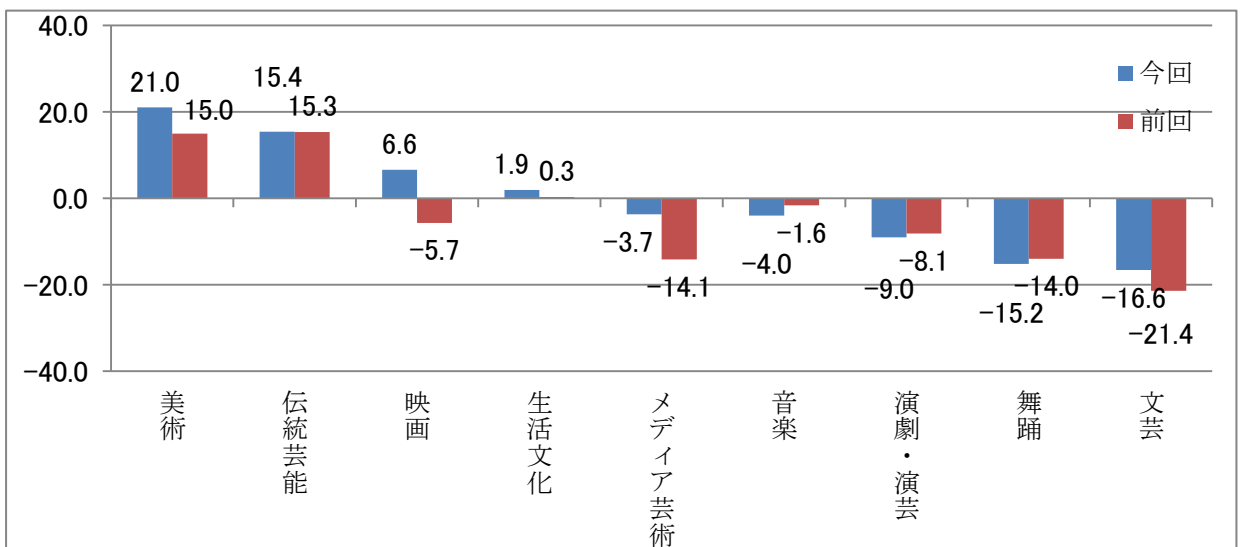
①文化活動が自分や子どもにとって大切なか

- ・ 自分にとって大切だと思う人は、「鑑賞すること」、「自ら演じたり、作ったりすること」ともに、前回調査から低下。
- ・ 子どもにとって大切だと思う人は、「鑑賞すること」、「自ら演じたり、作ったりすること」ともに、前回調査とほぼ同じ。



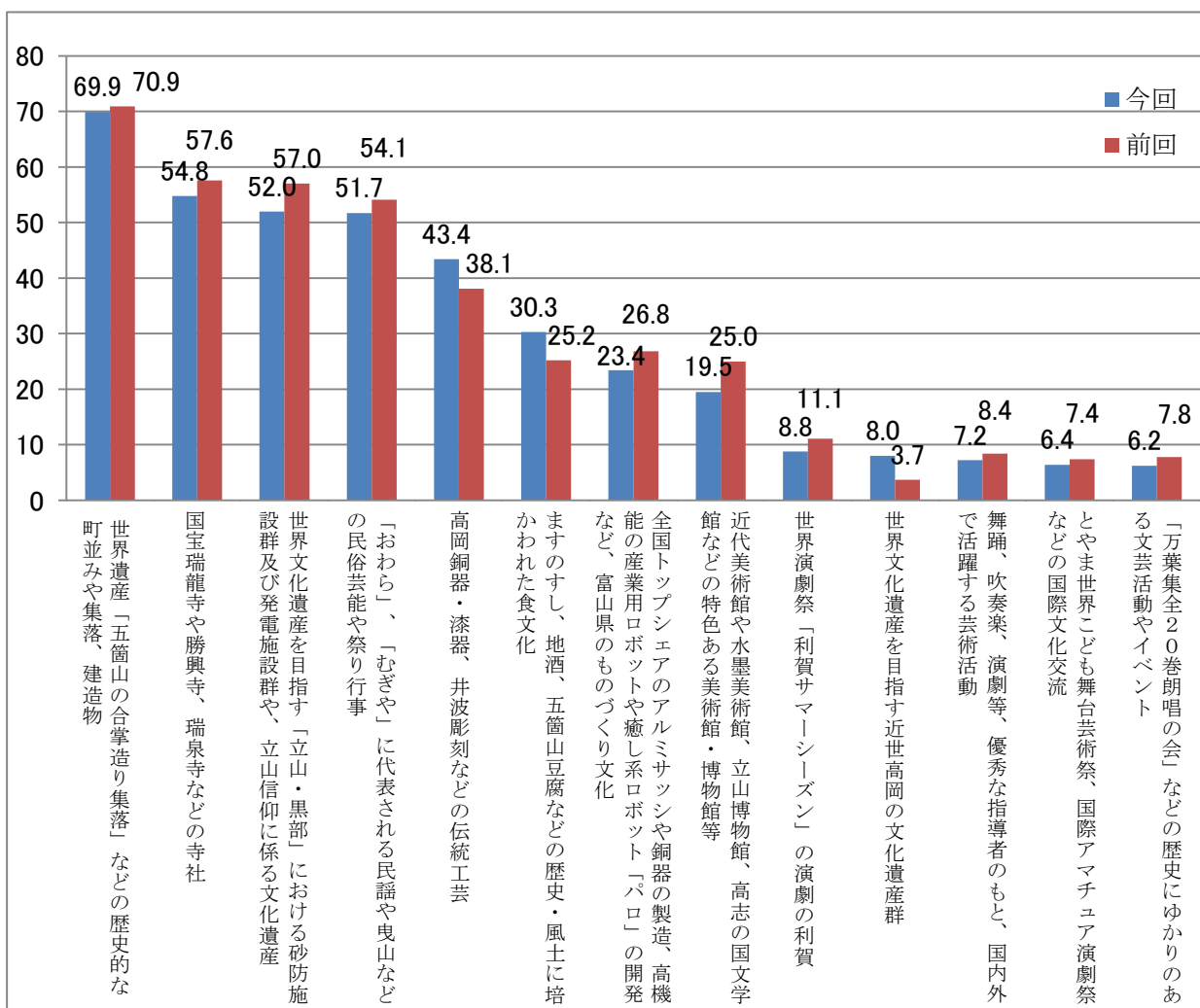
②本県の文化活動は盛んか（※「盛んであると思う」－「盛んでないと思う」の差）

- ・ 盛んであると思う人の方が多いのは「美術」「伝統芸能」「映画」「生活文化」。
- ・ 前回調査と比較すると、ポイント数が上昇したのは、「美術」「伝統芸能」「映画」「生活文化」「メディア芸術」「文芸」の6分野で、ポイント数が低下したのは、「音楽」「演劇・演芸」「舞踊」の3分野。

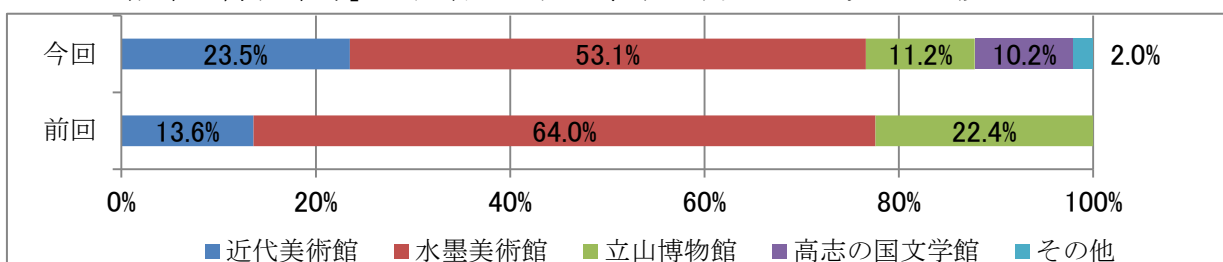


### ③全国的、国際的に誇れる文化、文化活動、文化財は何か

- ・「世界遺産『五箇山の合掌造り集落』などの歴史的な町並みや集落、建造物」が最も多く、次いで「国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社」、「世界文化遺産を目指す『立山・黒部』における砂防施設群及び発電施設群や、立山信仰に係る文化遺産」、「『おわら』、『むぎや』に代表される民謡や曳山などの民俗芸能や祭り行事」となり、これらは前回調査と同様の順。
- ・前回調査と比較すると、「高岡銅器・漆器、井波彫刻などの伝統工芸」、「ますのすし、地酒、五箇山豆腐などの歴史・風土に培かわれた食文化」、「世界文化遺産を目指す近世高岡の文化遺産群」の3項目が上昇。
- ・「近代美術館や水墨美術館、立山博物館、高志の国文学館などの特色ある美術館・博物館等」と回答した人が、特に誇れると考える施設は「水墨美術館」が最も多く、前回調査と比較すると、「近代美術館」が上昇。



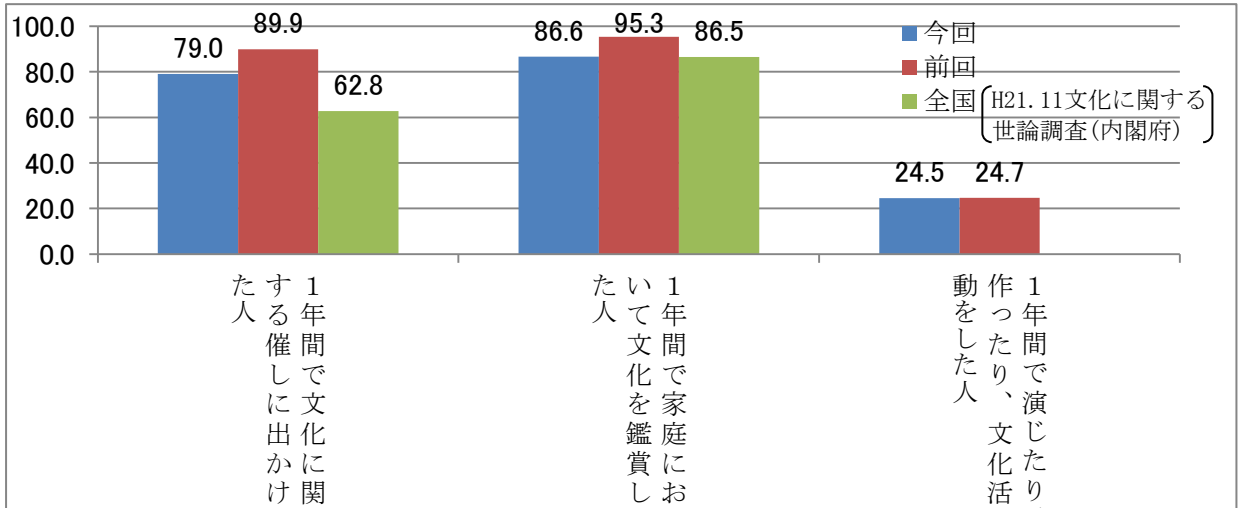
【参考】「近代美術館や水墨美術館、立山博物館、高志の国文学館などの特色ある美術館・博物館等」と回答した人が、特に誇れると考える施設



※前回は、高志の国文学館は選択肢に無かった。(開館していない)

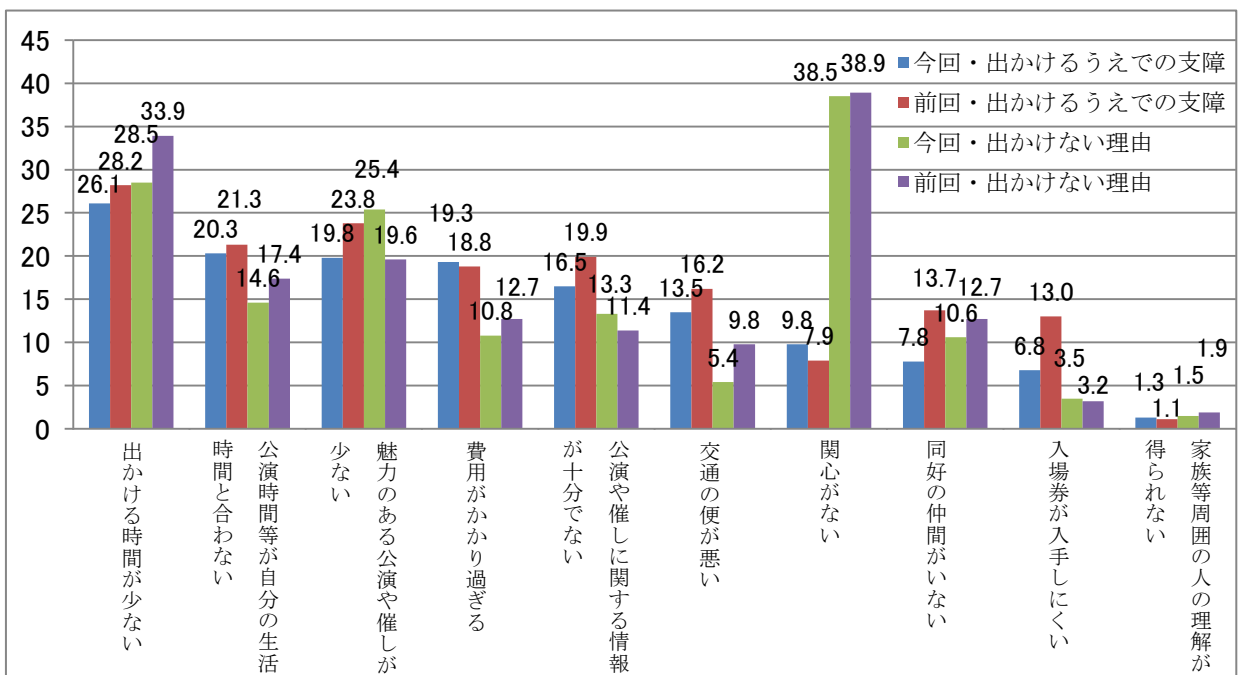
## 2 文化の鑑賞及び創作活動の状況

- ・ 前回調査と比較すると、「催しに出かけた人」、「家庭において文化を鑑賞した人」の割合は低下したが、「演じたり、作ったり、文化活動をした人」はほぼ同じ。
- ・ 全国調査と比較すると、「催しに出かけた人」の割合は高く、「家庭において文化を鑑賞した人」はほぼ同じ。



## 3 鑑賞に出かけるうえで支障となっていること、鑑賞に出かけない理由

- ・ 出かけるうえでの支障は、「出かける時間が少ない」が最も多く、次いで「公演時間等が自分の生活時間と合わない」、「魅力のある公演や催しが少ない」、「費用がかかり過ぎる」となった。
- ・ 出かけない理由は、「関心がない」が最も多く、次いで「出かける時間が少ない」、「魅力のある公演や催しが少ない」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、出かけるうえでの支障では「費用がかかり過ぎる」などが、出かけない理由では「魅力のある公演や催しが少ない」などが上昇。

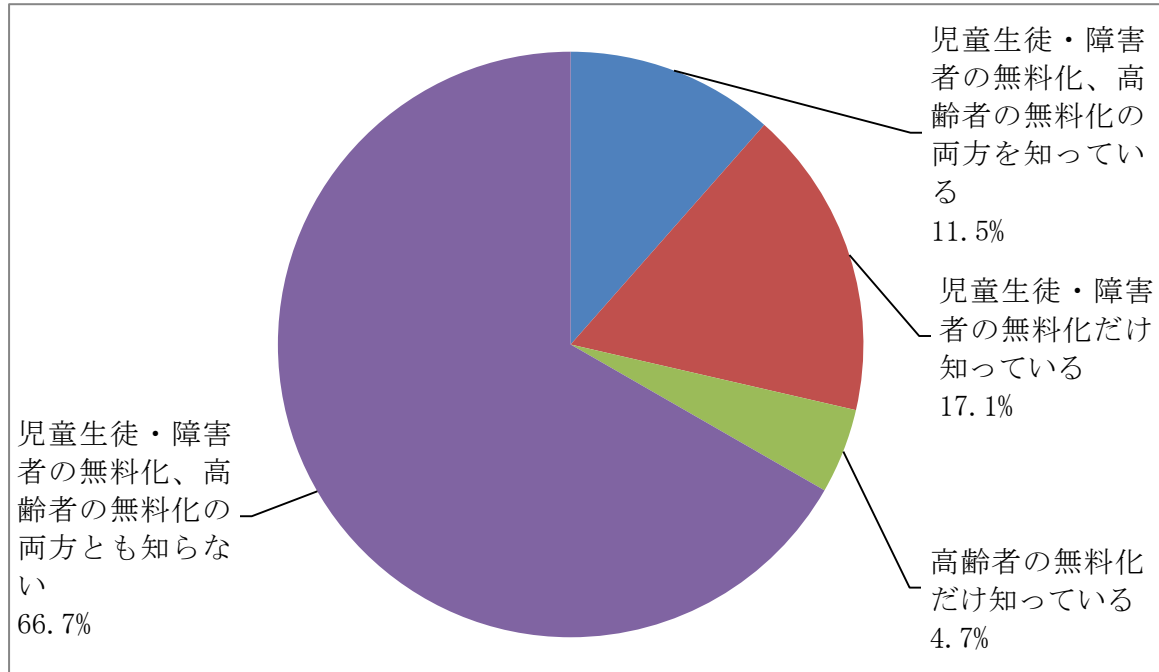


#### 4 美術館・博物館等での鑑賞

##### ①県立美術館・博物館等の無料化の周知度

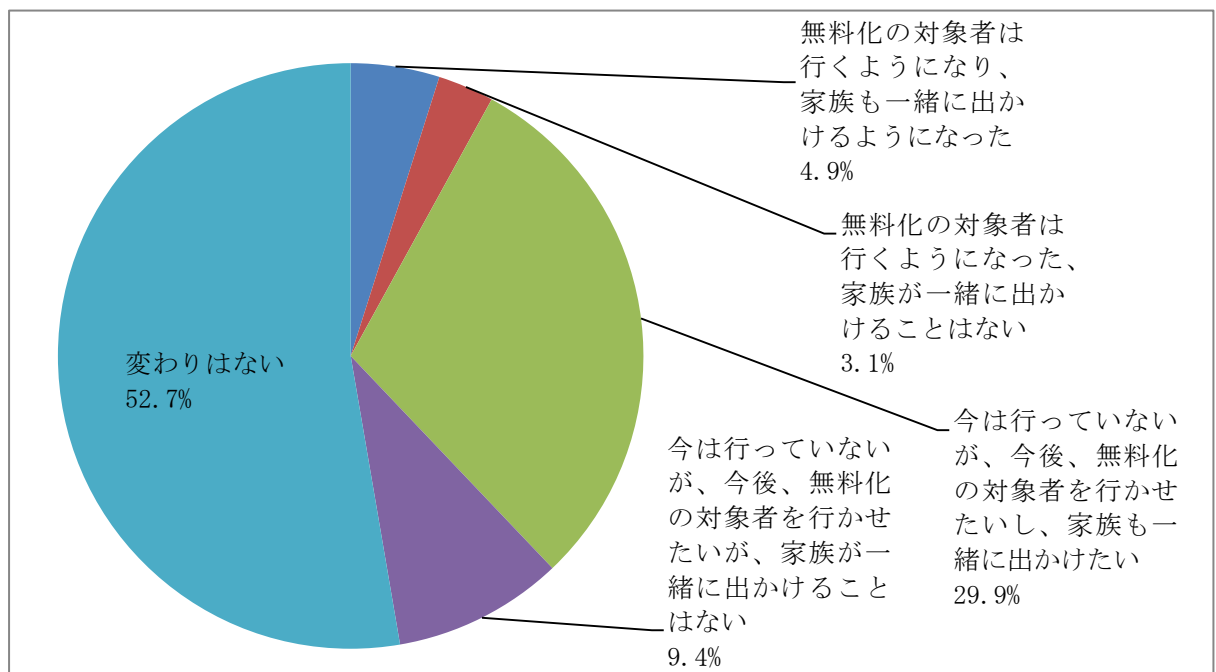
〔 児童生徒、障害者 ⇒ 常設展・企画展の観覧料が通年無料 (H17.4～)  
70歳以上の高齢者 ⇒ 常設展の観覧料が通年無料 (H28.4～) 〕

- ・ 全体では、「両方とも知らない」が3分の2を占めた。
- ・ 「知っている」の中では、「児童生徒・障害者の無料化だけ知っている」が最も多く、また、「両方を知っている」も1割を超えた。



##### ②無料化により、これまでより美術館等へ行くようになったか

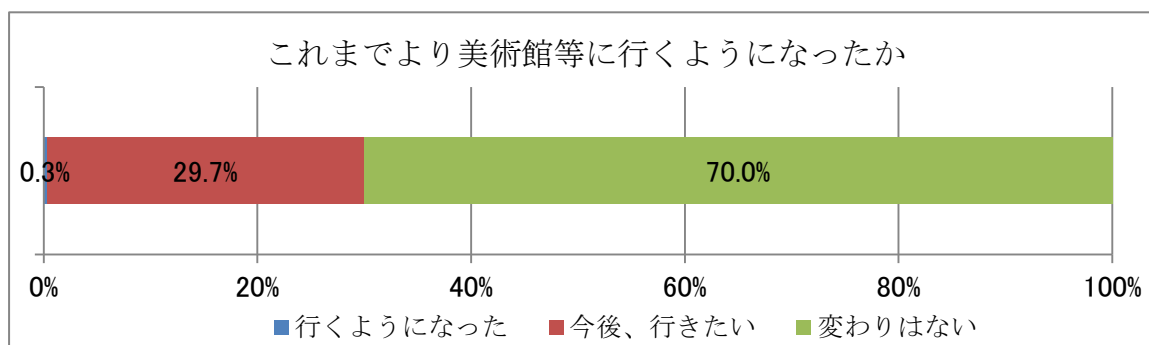
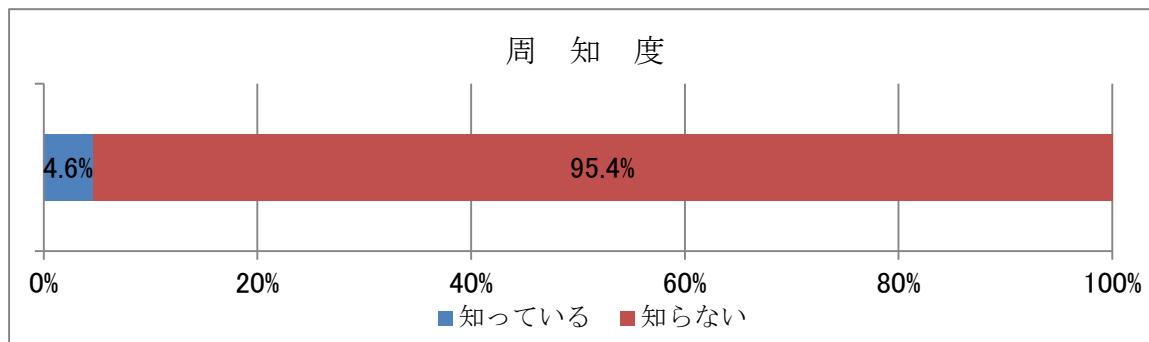
- ・ 全体的には、「変わりはない」が過半数となったが、約3割の人が「今後、無料化の対象者を行かせたいし、家族も一緒に出かけたい」と回答した。



③県立美術館等の開館時間の延長の周知度、開館時間の延長によりこれまでより美術館等に行くようになったか

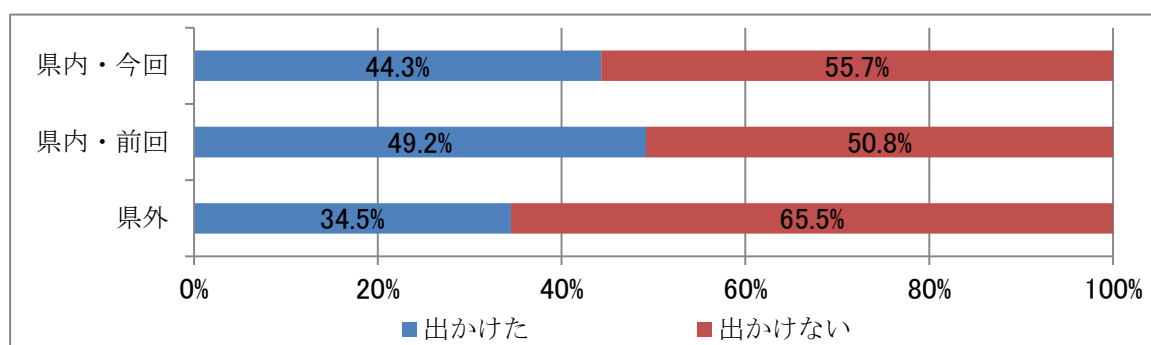
〔 近代美術館、水墨美術館、高志の国文学館、内山邸、金岡邸の  
閉館時間を1時間繰下げ（H28.4～） 〕

- ・ 「知らない」と回答した人が95.4%となったが、約3割の人が「今後、行きたい」と回答した。



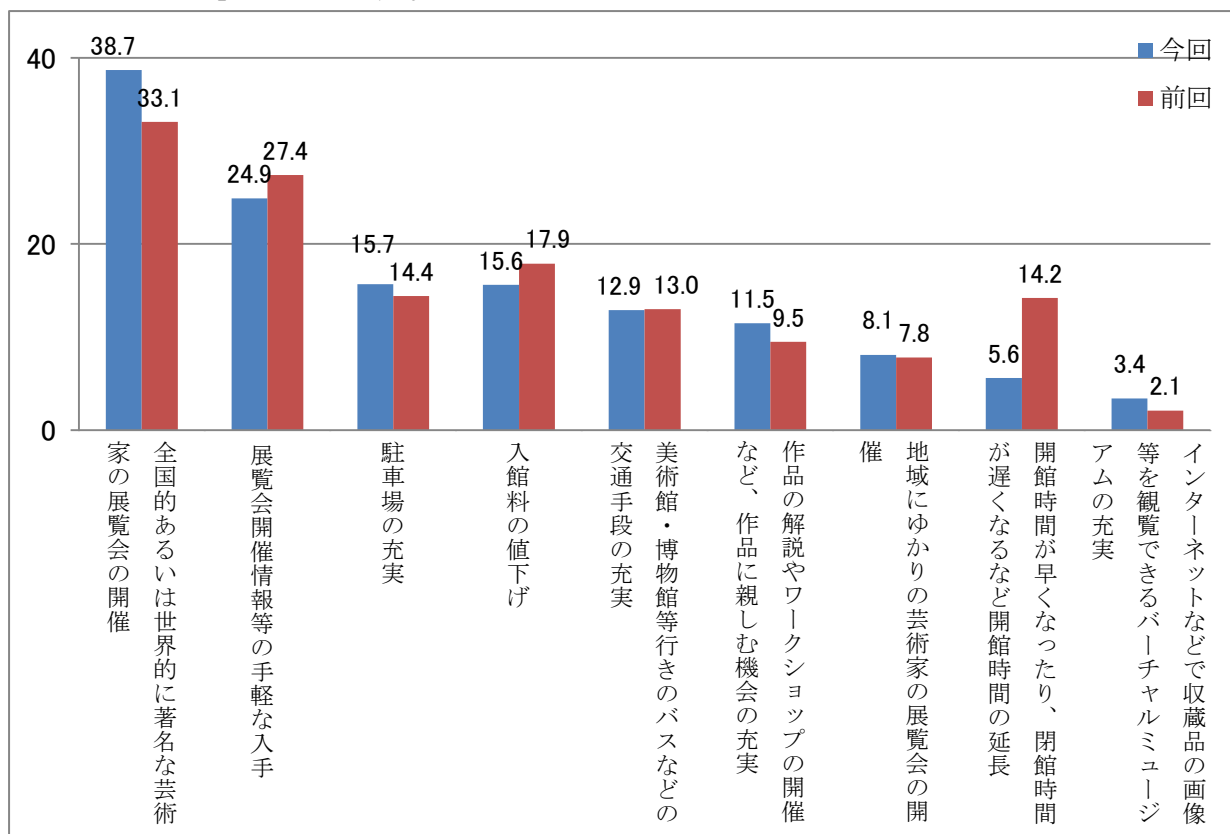
④この1年間における美術館・博物館等での鑑賞状況

- ・ この1年間に県内の美術館・博物館等へ「出かけた」と回答した人の割合は、前回調査と比べて低下。
- ・ この1年間に県外の美術館・博物館等へ「出かけた」と回答した人の割合は、県内と比べて約1割少なかった。（※新規設問のため、前回調査の結果なし）



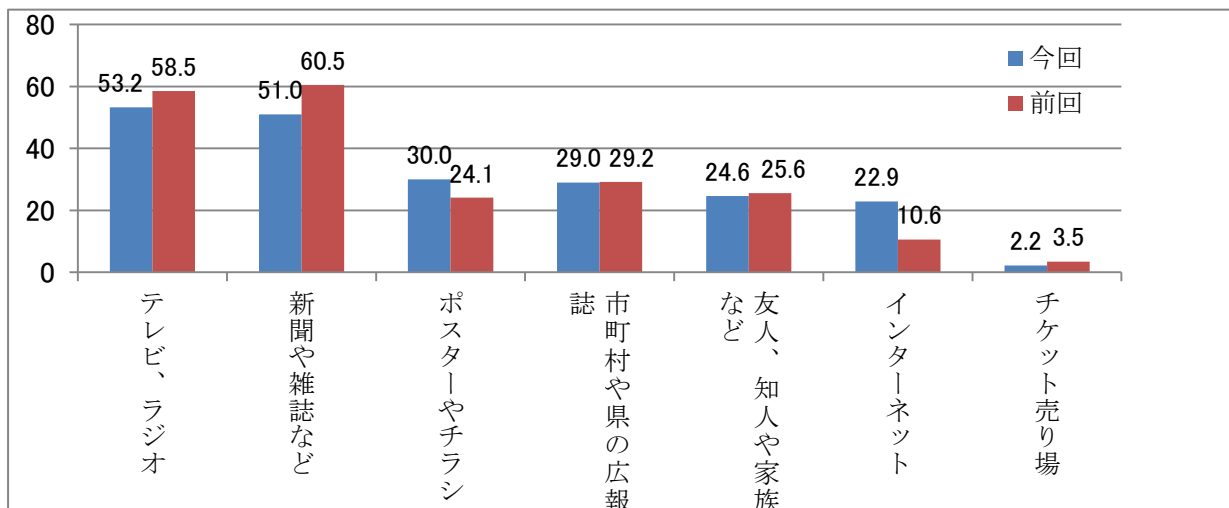
### ⑤ どうすれば美術館・博物館等にもっと出かけやすくなるか

- ・ 「全国的あるいは世界的に著名な芸術家の展覧会の開催」が最も多く、次いで「展覧会開催情報等の手軽な入手」、「駐車場の充実」、「入館料の値下げ」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「開館時間が早くなったり、閉館時間が遅くなるなど開館時間の延長」が大きく低下した一方、「全国的あるいは世界的に著名な芸術家の展覧会の開催」、「作品の解説やワークショップの開催など作品に親しむ機会の充実」などは上昇。



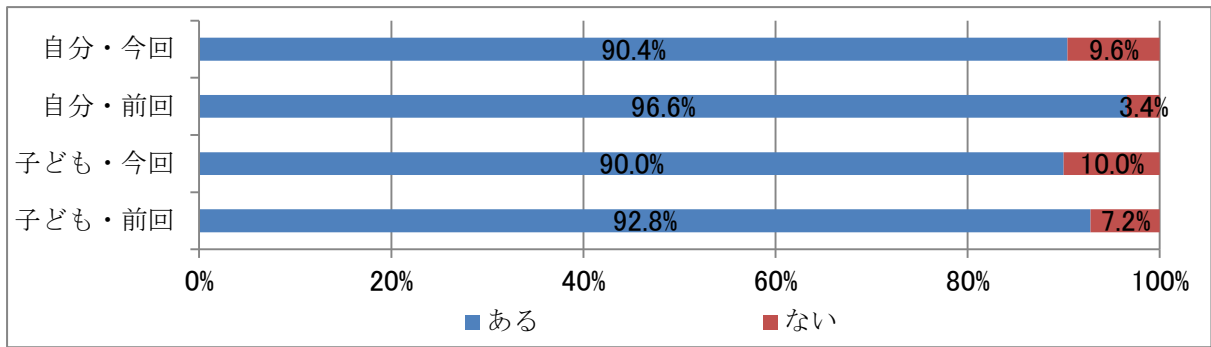
### 5 文化の鑑賞に関する情報の入手先

- ・ 「テレビ、ラジオ」と「新聞や雑誌など」は、依然として高い割合にあるものの、前回調査と比較すると低下。
- ・ 前回調査と比較すると、「インターネット」が大きく上昇しているほか、「ポスターやチラシ」も上昇。



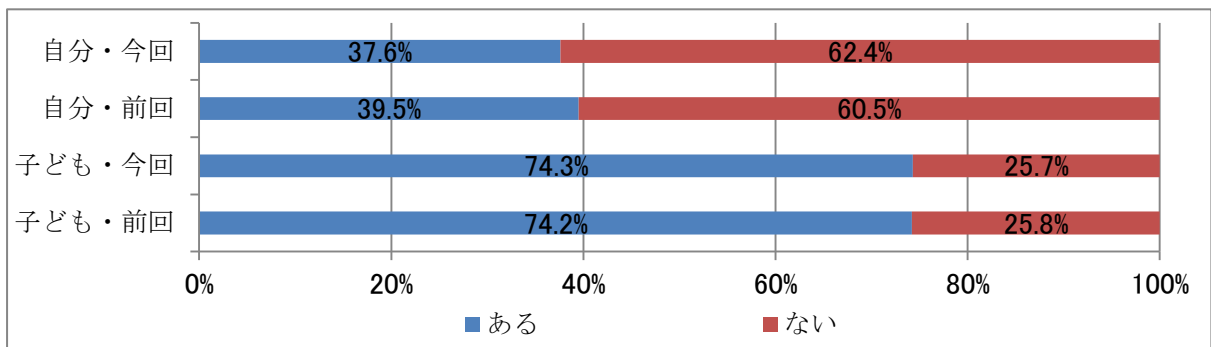
## 6 今後、もっと自分が鑑賞したい分野や子どもたちに鑑賞させたい分野があるか

- ・ 「自分」、「子ども」とともに、前回調査からは低下したが、90%を超えた。



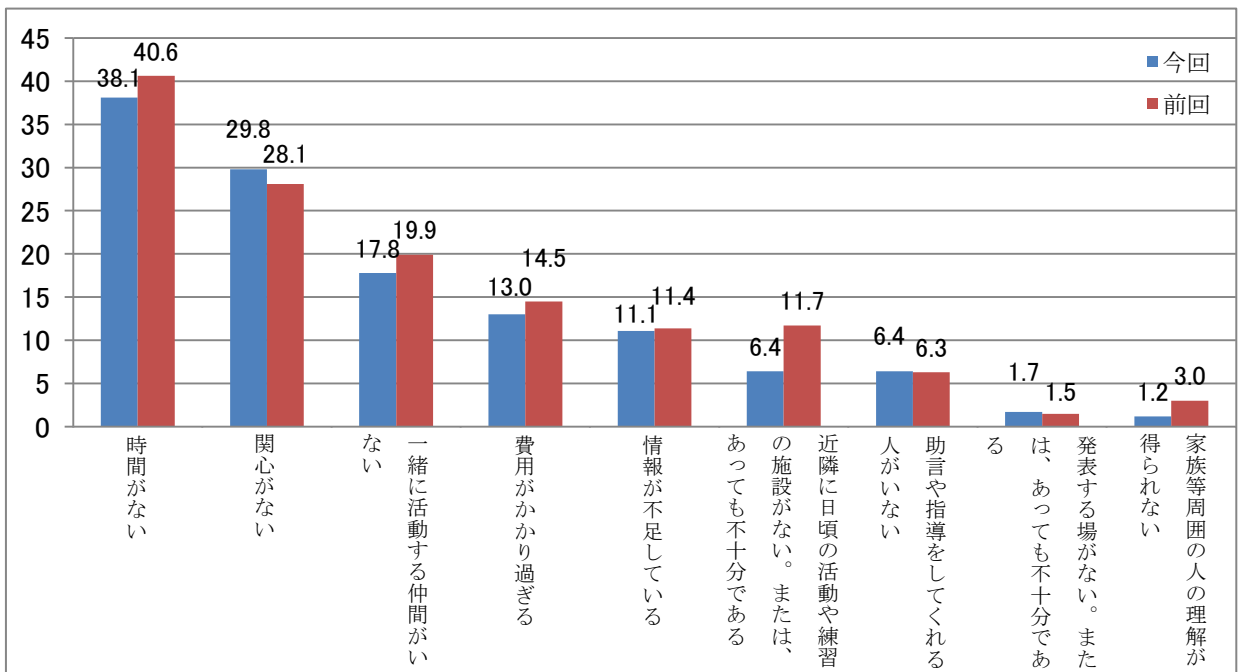
## 7 今後、自分がしたい文化活動や子どもたちにさせたい文化活動はあるか

- ・ 「自分」については40%弱、「子ども」については約75%で、前回調査とほぼ同じ。



## 8 文化活動を行ううえでの支障や文化活動を行わない理由

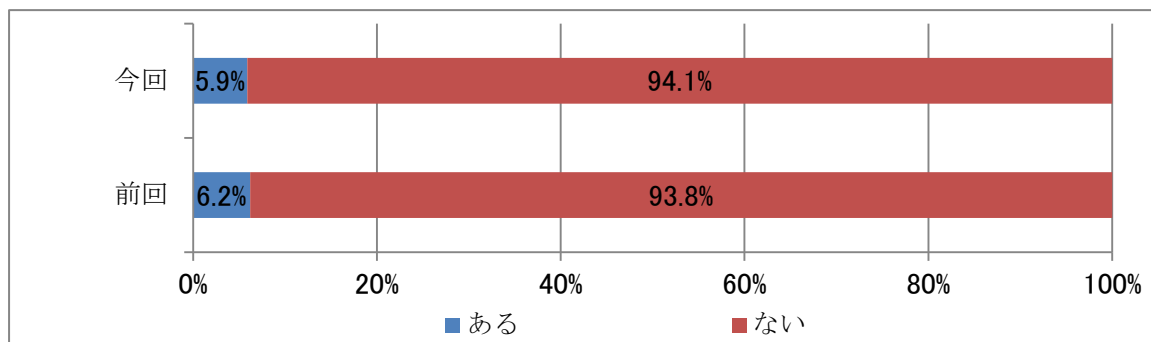
- ・ 「時間がない」が最も多く、次いで「関心がない」、「一緒に活動する仲間がいない」となり、これらは前回調査と同様の順。
- ・ 前回調査と比較すると、「近隣に日頃の活動や練習の施設がない。または、あっても不十分である」、「一緒に活動する仲間がいない」、「家族等周囲の人の理解が得られない」などが低下。



## 9 文化ボランティア活動の状況

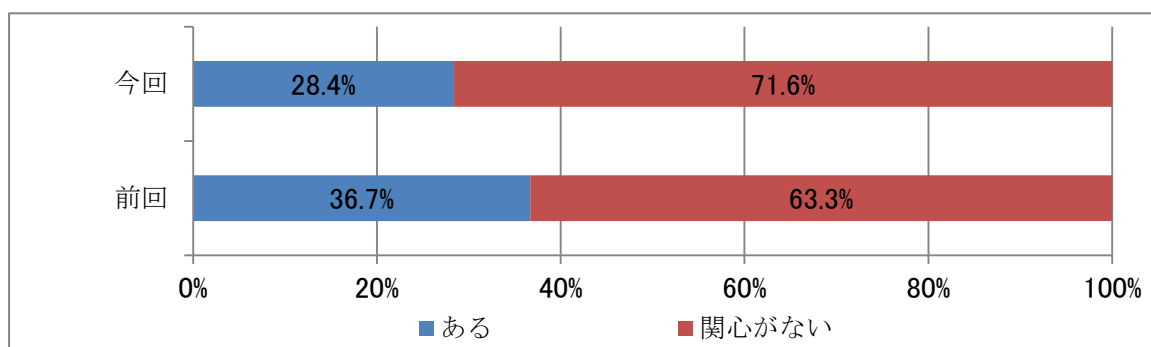
### ①現在行っている文化ボランティア活動

- ・ 「ある」と回答した人は約6%で、前回調査とほぼ同じ。



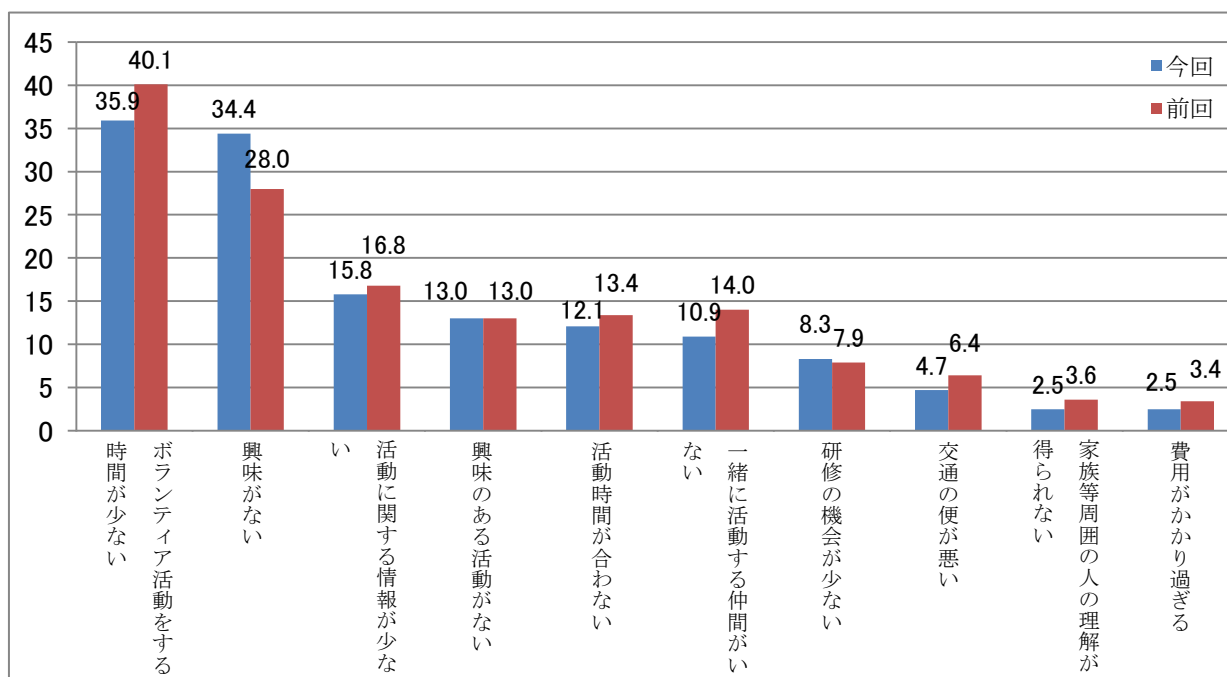
### ②今後、行いたいと思う文化ボランティア活動

- ・ 「ある」と回答した人は、前回調査から低下し、30%を下回った。



### ③文化ボランティア活動を行う際の支障

- ・ 「ボランティア活動をする時間がない」と「興味がない」が約35%となり、次いで「活動に関する情報が少ない」、「興味のある活動がない」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「興味がない」、「研修の機会が少ない」が上昇。





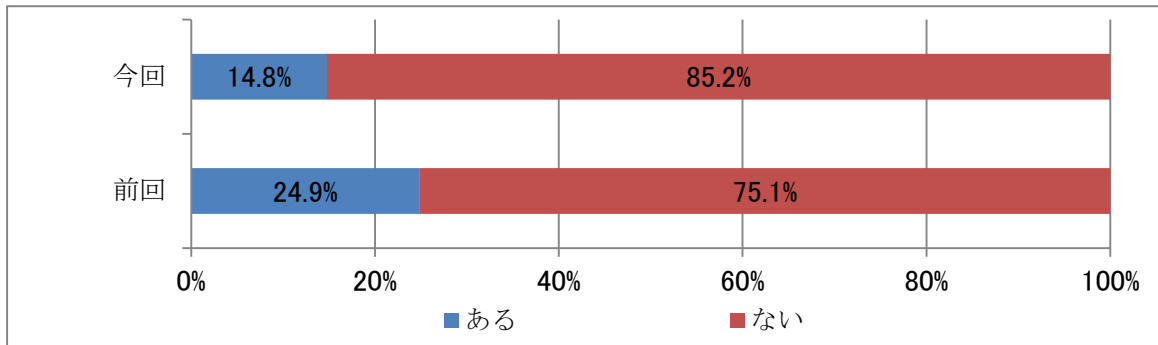
④子どもたちが、今後、文化ボランティア活動に参加するために必要な取組み

- ・ 回答は自由記述方式としたところ、学校単位での参加や、授業に取り入れるなど、子どもたちの日常生活の中で取り組める環境を望む声が多くあった。

10 地域の民俗芸能、祭礼行事

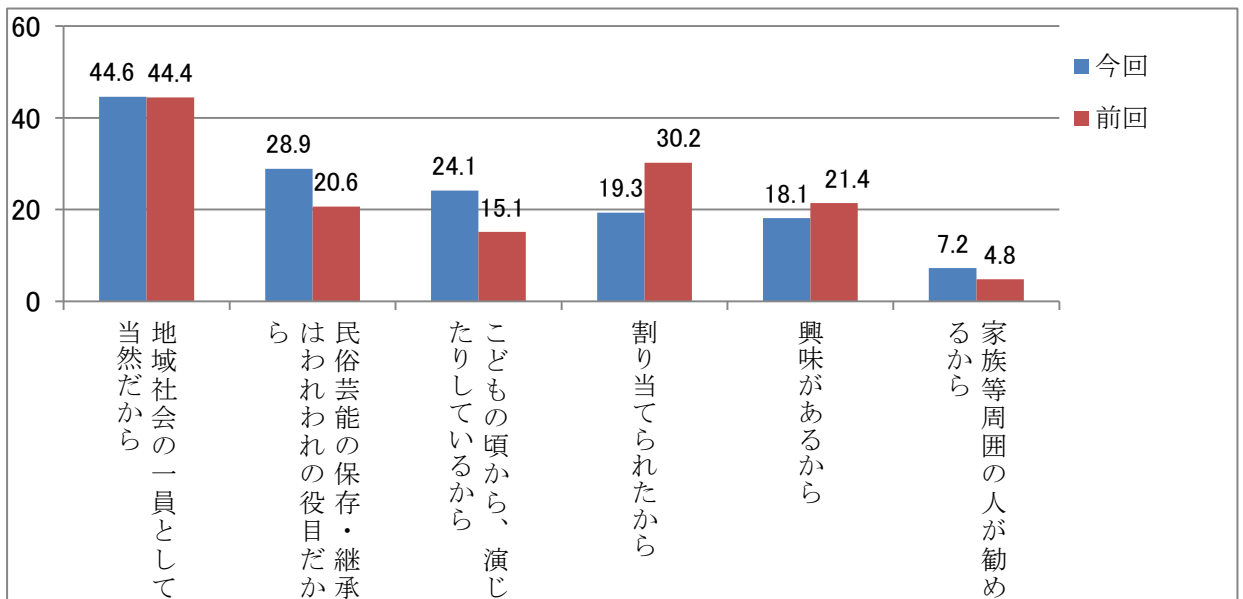
①最近、地域の民俗芸能や祭礼行事を自分で演じたり、参加したことがあるか

- ・ 「ある」と回答した人は、前回調査を約 10% 下回った。



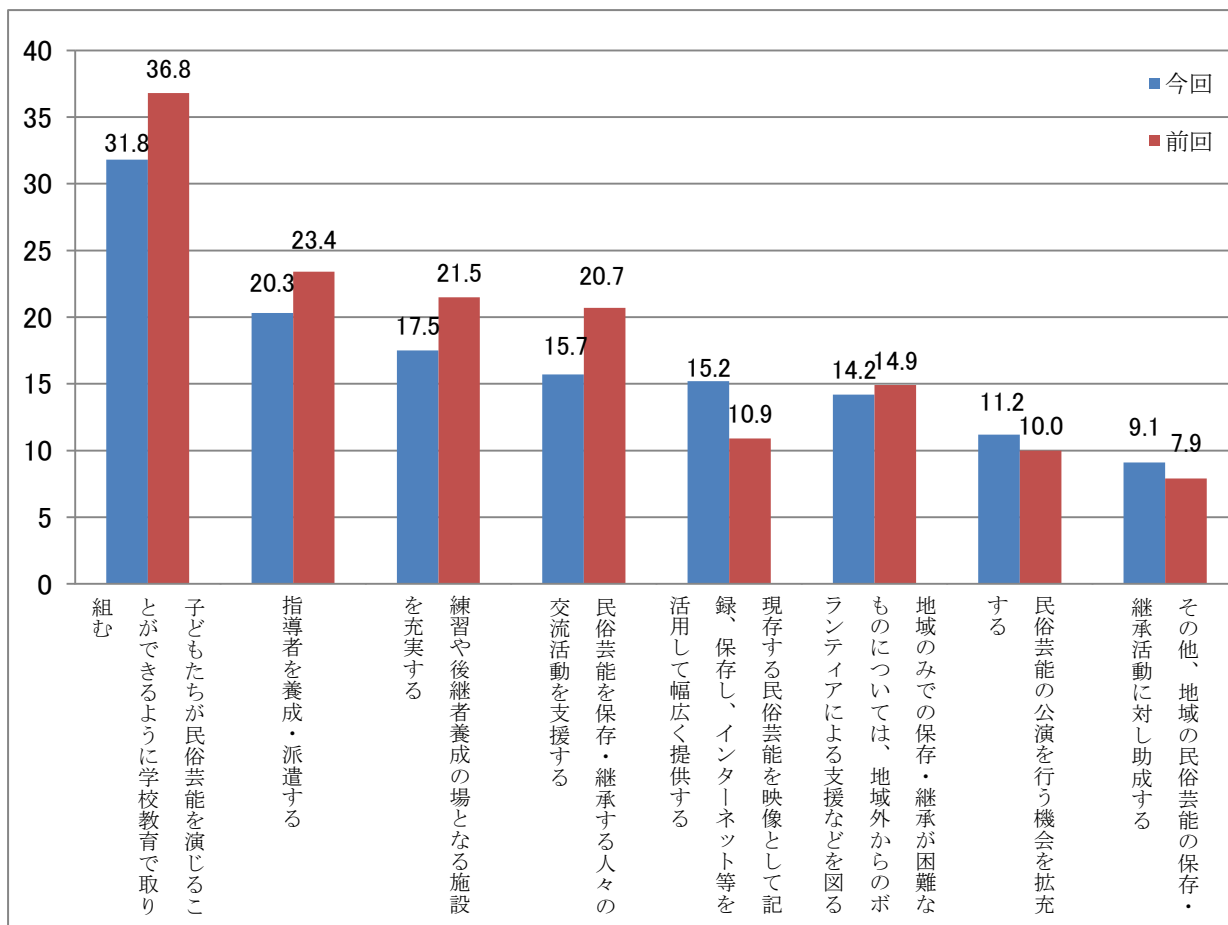
②自分で演じたり、参加したきっかけは何か

- ・ 「地域社会の一員として当然だから」が最も多く、次いで「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」、「こどもの頃から、演じたりしているから」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」、「こどもの頃から、演じたりしているから」、「家族等周囲の人が勧めるから」は上昇し、「割り当てられたから」、「興味があるから」は低下。



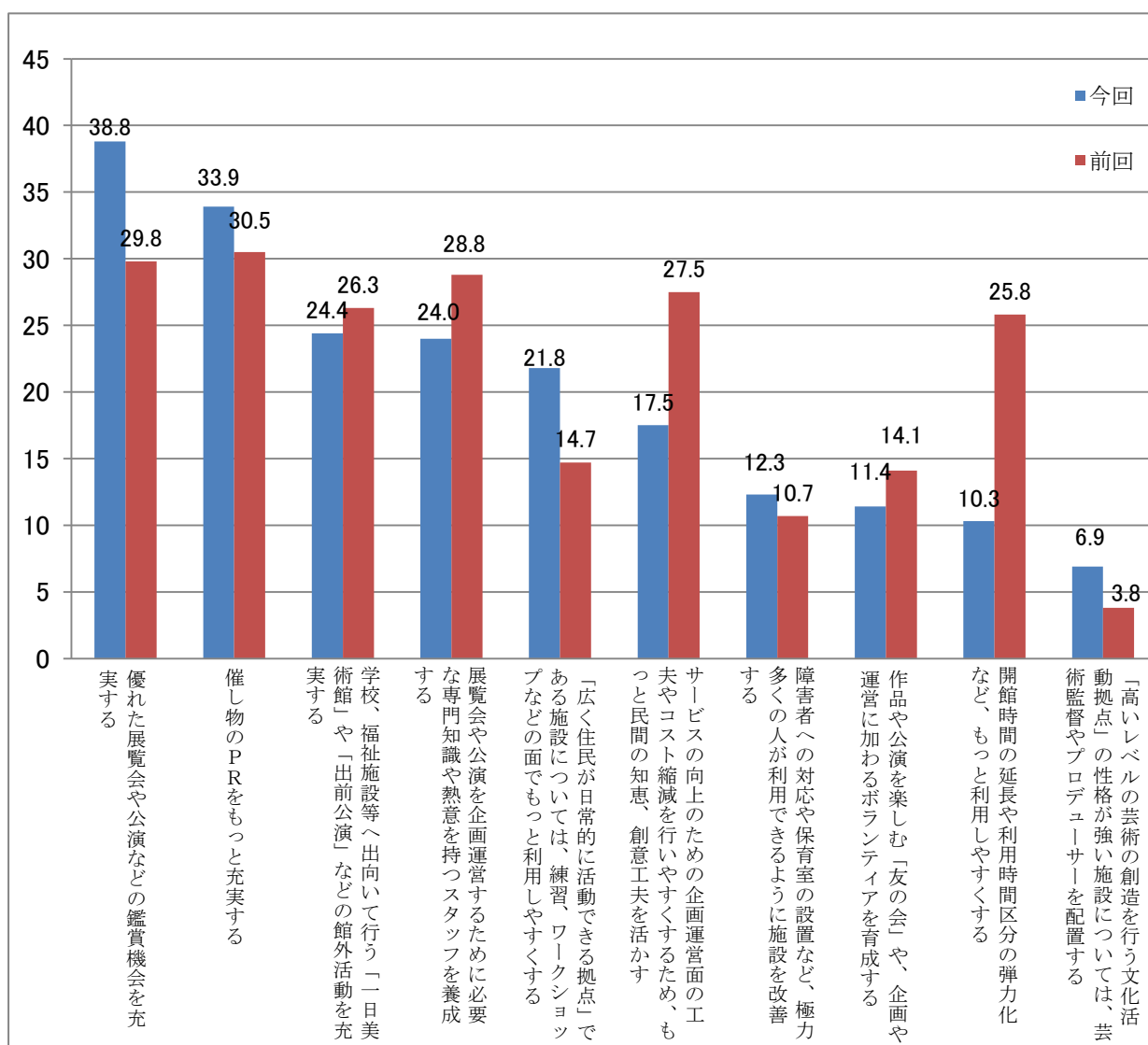
### ③地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承に関し県や市町村が力を入れること

- ・ 「子どもたちが民俗芸能を演じることができるように学校教育で取り組む」が最も多く、次いで「指導者を養成・派遣する」、「練習や後継者養成の場となる施設を充実する」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「現存する民俗芸能を映像として記録、保存し、インターネット等を活用して幅広く提供する」、「民俗芸能の公演を行う機会を拡充する」、「その他、地域の民俗芸能の保存・継承活動に対し助成する」の3項目が上昇し、その他の項目は低下。



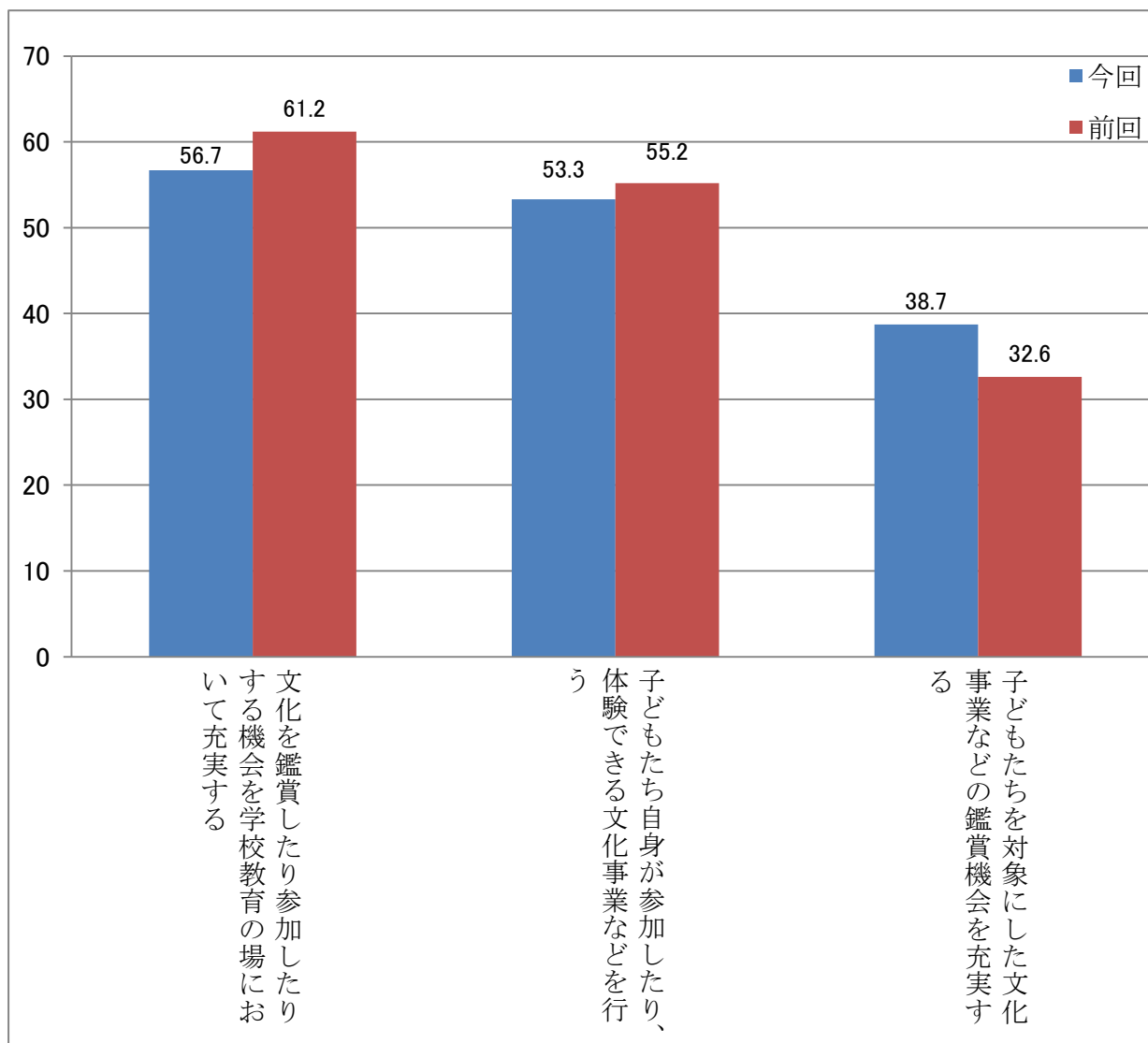
## 11 文化施設が地域の文化活動の拠点となるために県や市町村が力を入れること

- ・ 「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会を充実する」が最も多く、次いで「催し物のPRをもっと充実する」、「学校、福祉施設等へ出向いて行う『一日美術館』や『出前公演』などの館外活動を充実する」、「展覧会や公演を企画するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会を充実する」、「催し物のPRをもっと充実する」、「『広く住民が日常的に活動できる拠点』である施設については、練習、ワークショップなどの面でもっと利用しやすくする」などが上昇。
- ・ 一方、「学校、福祉施設等へ出向いて行う『一日美術館』や『出前公演』などの館外活動を充実する」、「展覧会や公演を企画するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する」、「サービスの向上のための企画運営面の工夫やコスト削減を行いやすくするため、もっと民間の知恵、創意工夫を活かす」、「開館時間の延長や利用時間区分の弾力化など、もっと利用しやすくする」などは、前回調査と比べて低下。



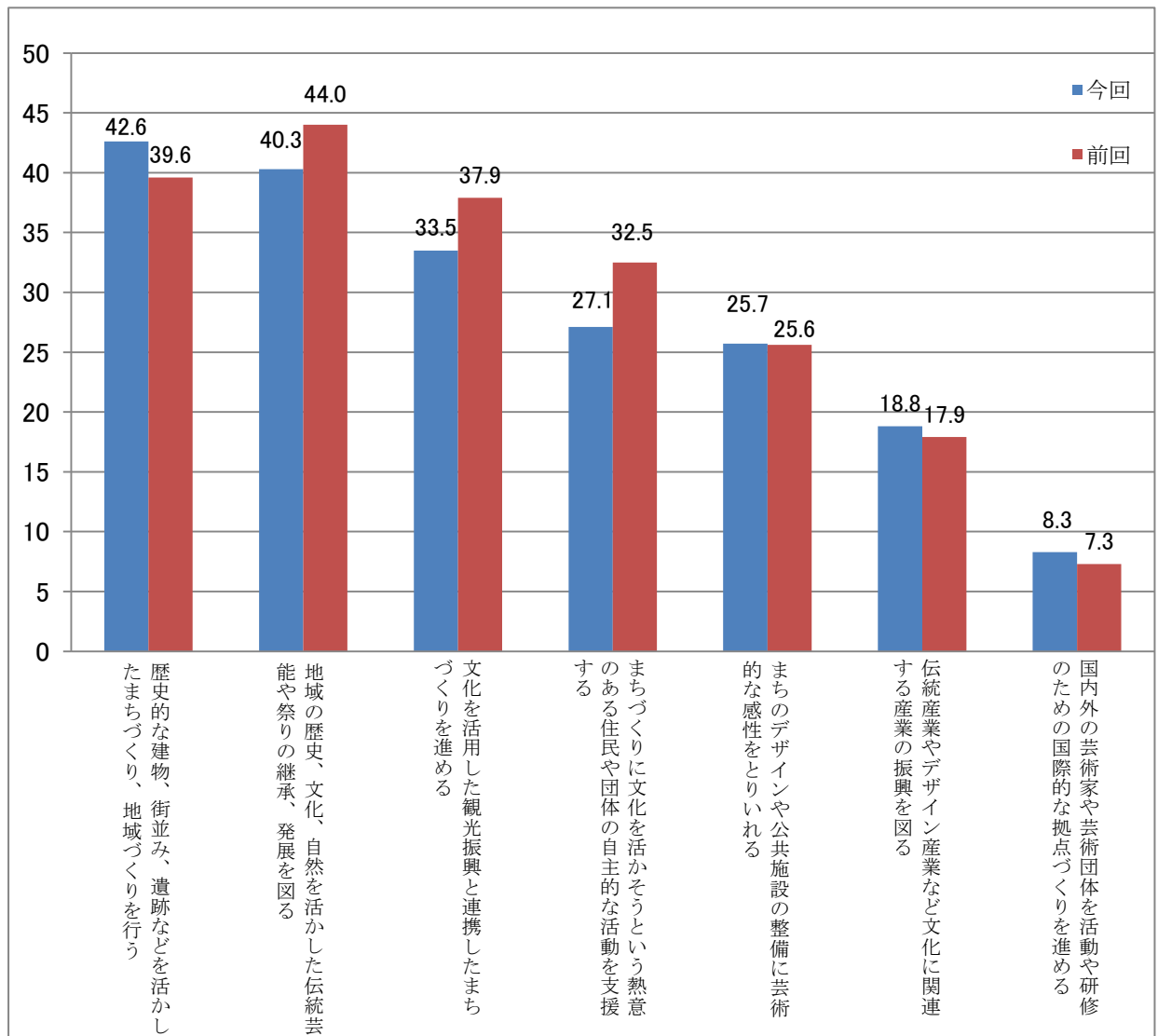
## 12 子どもたちが文化に親しむために県や市町村が力を入れること

- ・ 「文化を鑑賞したり参加したりする機会を学校教育の場において充実する」が最も多く、次いで「子どもたち自身が参加したり、体験できる文化事業などを行う」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「子どもたちを対象にした文化事業などの鑑賞機会を充実する」は上昇。



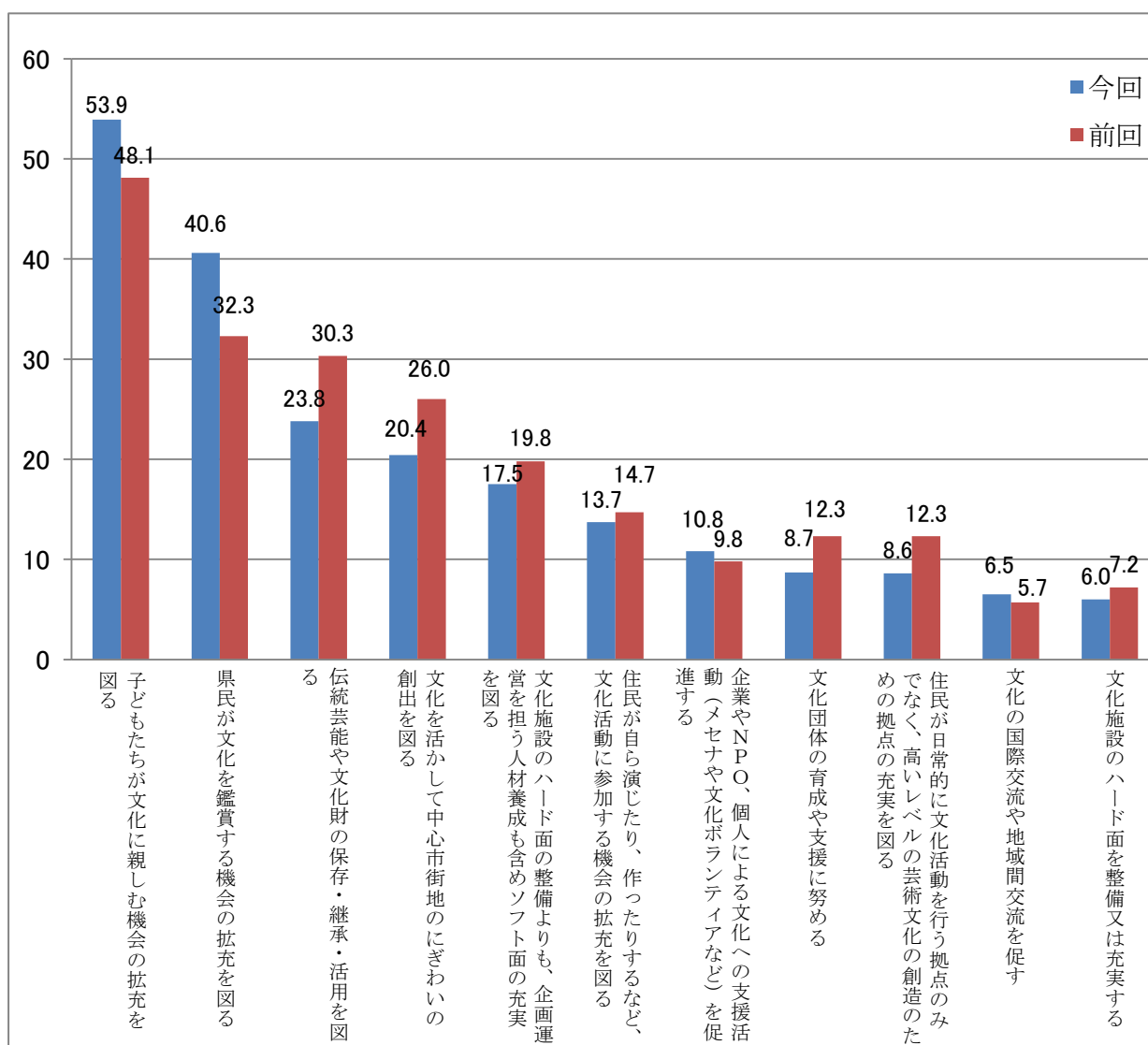
### 13 地域文化を生かし、文化と他分野との連携を強化するために県や市町村が力を入れること

- ・「歴史的な建物、街並み、遺跡などを活かしたまちづくり、地域づくりを行う」が最も多く、次いで「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」、「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」、「まちづくりに文化を活かそうという熱意のある住民や団体の自主的な活動を支援する」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「歴史的な建物、街並み、遺跡などを活かしたまちづくり、地域づくりを行う」、「伝統産業やデザイン産業など文化に関連する産業の振興を図る」などが上昇。
- ・ 一方、「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」、「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」、「まちづくりに文化を活かそうという熱意のある住民や団体の自主的な活動を支援する」は、前回調査と比べて低下。



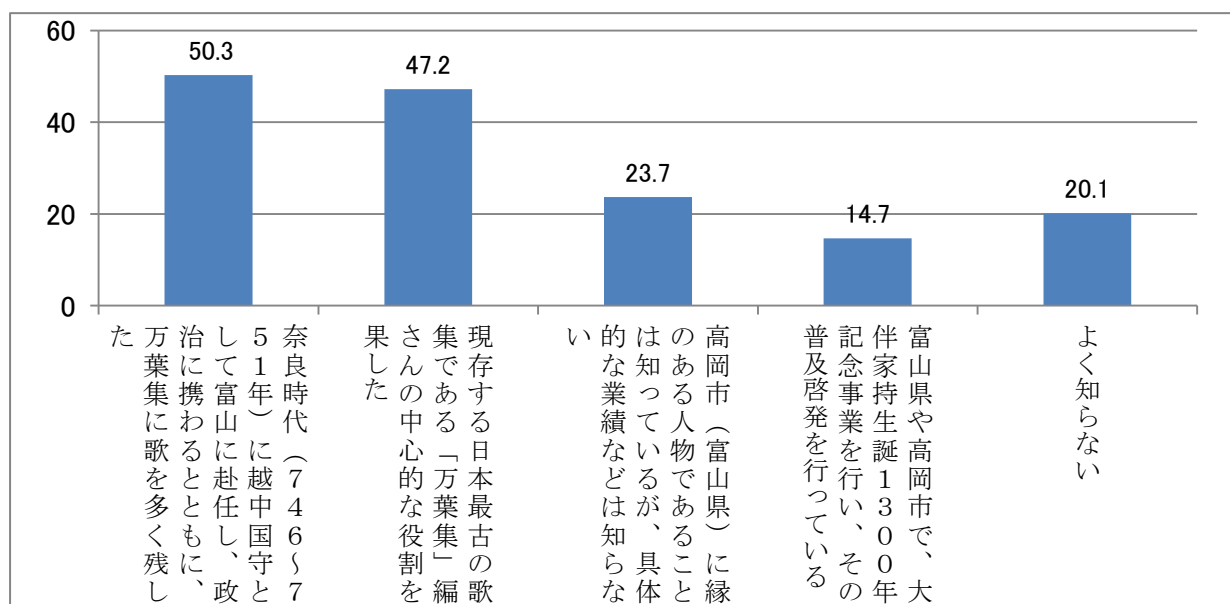
#### 14 文化の振興を通じて「元気とやま」を創造するために県や市町村が重点を置く施策

- ・ 「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」が最も多く、次いで「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」、「文化を活かして中心市街地のにぎわいの創出を図る」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」、「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」、「企業やNPO、個人による文化への支援活動（メセナや文化ボランティアなど）を促進する」、「文化の国際交流や地域間交流を促す」が上昇。
- ・ 一方、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」、「文化を活かして中心市街地のにぎわいの創出を図る」、「文化施設のハード面の整備よりも、企画運営を担う人材養成も含めソフト面の充実を図る」などは、前回調査と比べて低下。



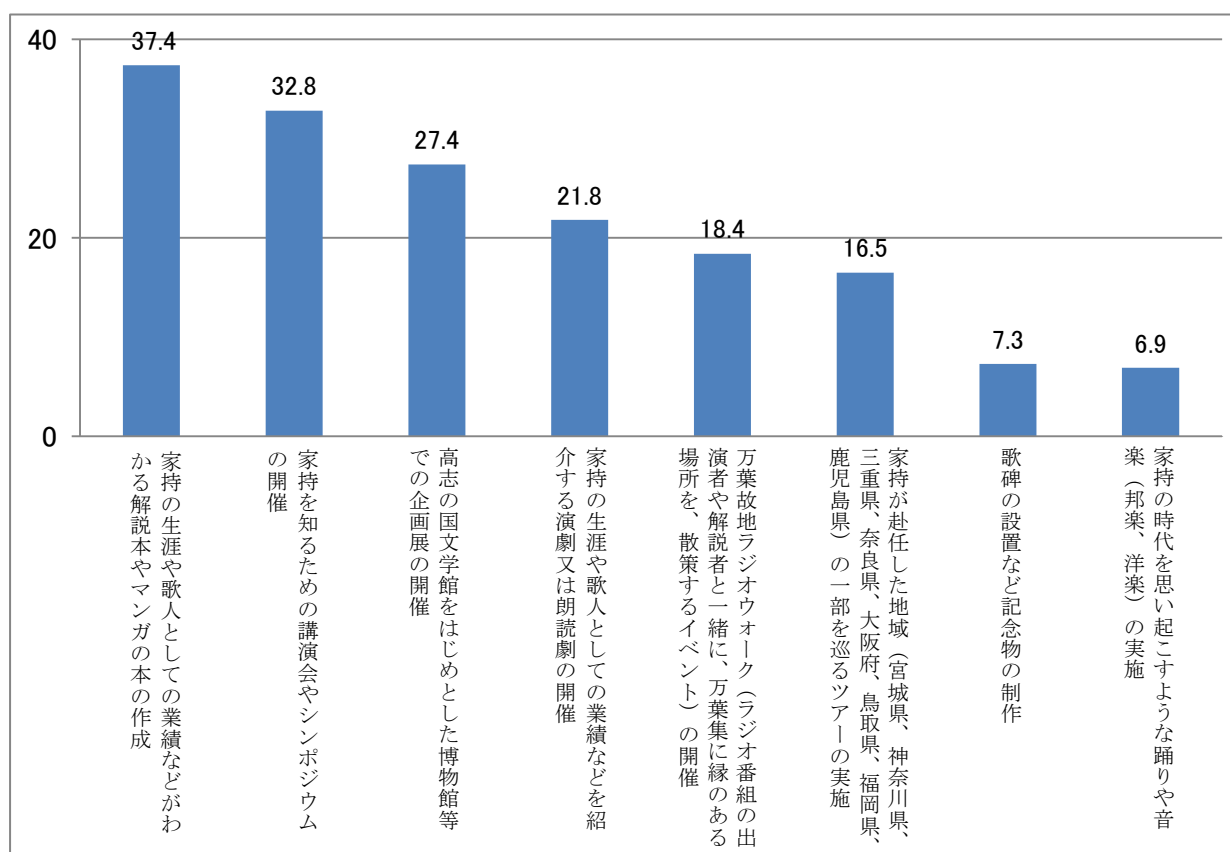
## 15 大伴家持について知っていること

- 「奈良時代（746～751年）に越中国守として富山に赴任し、政治に携わるとともに、万葉集に歌を多く残した」と、「現存する日本最古の歌集である「万葉集」編さんの中心的な役割を果たした」、が、約5割となった。



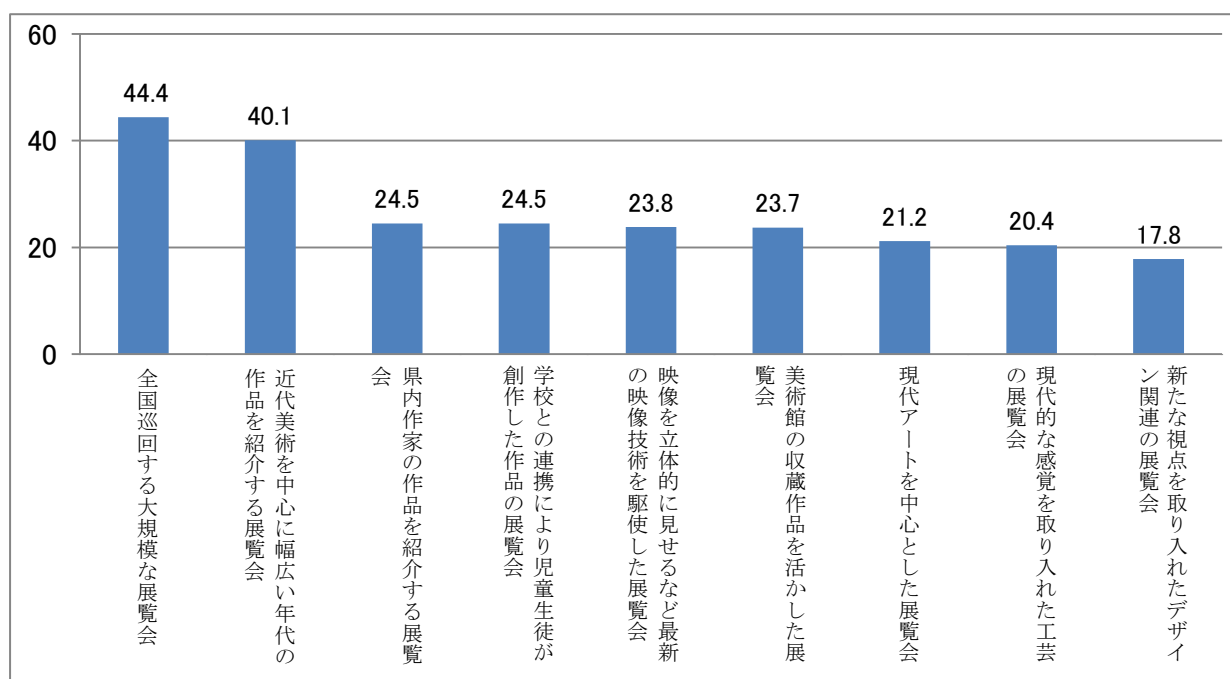
## 16 大伴家持生誕1300年記念事業に期待する催し

- 「家持の生涯や歌人としての業績などがわかる解説本やマンガの本の作成」が最も多く、次いで「家持を知るための講演会やシンポジウムの開催」、「高志の国文学館をはじめとした博物館等での企画展の開催」、「家持の生涯や歌人としての業績などを紹介する演劇又は朗読劇の開催」となった。

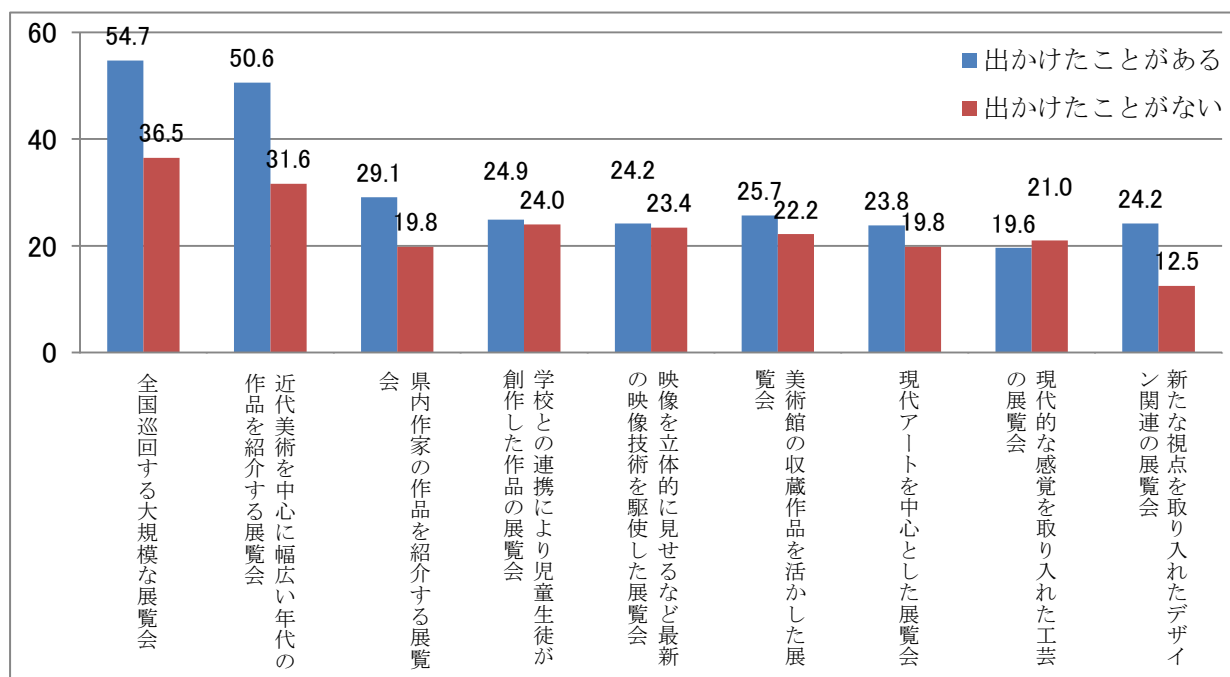


## 17 富山県美術館で開催してほしい展覧会

- ・「全国巡回する大規模な展覧会」と、「近代美術を中心に幅広い年代の作品を紹介する展覧会」が約4割となり、次いで「県内作家の作品を紹介する展覧会」、「学校との連携により児童生徒が創作した作品の展覧会」となった。
- ・この1年間に県内の美術館・博物館等に出かけたことのある人は、出かけたことのない人と比べて、「全国巡回する大規模な展覧会」、「近代美術を中心に幅広い年代の作品を紹介する展覧会」、「新たな視点を取り入れたデザイン関連の展覧会」をより多くの割合で選択している。



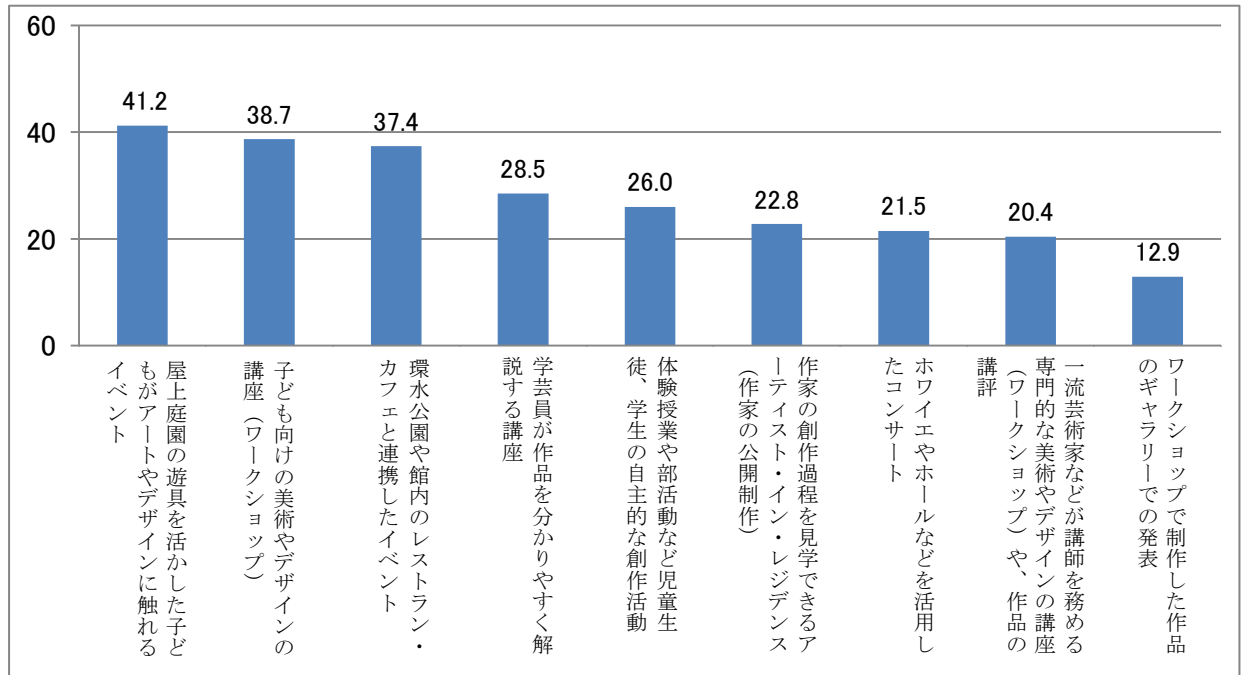
【参考】この1年間に県内の美術館・博物館等に出かけたことがある人と出かけたことがない人に区分して集計したもの





## 18 富山県美術館で参加してみたい（子どもに参加させてみたい）活動

- ・「屋上庭園の遊具を活かした子どもがアートやデザインに触れるイベント」、「子ども向けの美術やデザインの講座（ワークショップ）」、「環水公園や館内のレストラン・カフェと連携したイベント」が約4割となり、次いで「学芸員が作品を分かりやすく解説する講座」となった。
- ・この1年間に県内の美術館・博物館等に出かけたことのある人は、出かけたことのない人と比べて、「学芸員が作品を分かりやすく解説する講座」をより多くの割合で選択している。



【参考】この1年間に県内の美術館・博物館等に出かけたことがある人と出かけたことがない人に区分して集計したもの

